

ICTニュースレター

桜の季節も終わり、気温が高くなる日が出てきました。体調は崩していませんか。
最近では新型コロナウイルスの他、小児に多い感染症が流行しています。
伝染性紅斑(リンゴ病)をご存知でしょうか。栃木県内の定点報告では、一部の地域で警報レベルが続いています。

【伝染性紅斑】とは

「ヒトパルボウイルス 819」による感染症で、頬がリンゴのように真っ赤になるためリンゴ病とよばれています。主な感染経路は飛沫感染と接触感染。

<症状>

両頬の境界がはっきりとした赤い発疹(紅斑)が現れ、その後身体や手足に網目状の発疹が広がります。発疹は1週間程度で消失します。

頬に紅斑が出る1週間くらい前に微熱や咽頭痛など風邪のような症状が現れていることがあり、この時期に人に感染させる可能性があります。皮膚症状が出るころには感染力がないのが特徴です。



<大人が感染した場合>

- ・ 発熱や頭痛、倦怠感などのかぜ症状が子どもより強い傾向
- ・ 頬が赤くなることは少なく、ほてる程度
- ・ 手足に網目状あるいはレース状の発疹やむくみ
- ・ 関節痛の訴えが高確率(女性は60%、男性は30%)
- ・ 関節炎症状が強く、1~2日歩行困難になることもある
- ・ 感染してもあきらかな症状があらわれない不顕性(ふけんせい)感染のケースが多い
- ・ 妊婦への感染は流産の原因になりうるため特に注意が必要

こまめな手洗い・消毒と、風邪症状のある人は咳やくしゃみをする時には口と鼻をハンカチ等でおおななどの「咳エチケット」を心がけることをお願いいたします。

Cチーム:平野、大浪